

授業科目名	子育て支援	教員名	有木 正浩 (実務経験のある教員)	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
科目番号	FOI303	配当年次	3年後期		幼稚園教諭	選択
					保育士	必修
授業形態	演習				こども音楽療育士	
単位数	1単位				情報処理士	
科目						
施行規則に定める科目区分						
一般目標	保育の専門性を基盤にした保育相談支援のスキルを獲得し、実践事例を通して、様々な場や対象に即した子育て支援の方法及び技術を身につける。					
到達目標	1, 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示などの支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 2, 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1, 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「6, 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置されている。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の専門性を活かした保護者支援を行うために、相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の保育相談支援の理解を深め、実践を通して、様々な場や対象に即した子育て支援の方法及び技術を学ぶ。 ・保護者役と保育士役とのロールプレイ、グループディスカッションを行い、実践的な体験を行う。 ・児童相談所などで、障害児を持つ保護者や、適切な養育が出来ない保護者に対して関わってきた経験をもとに、様々な対応のあり方を実践的に学習する。 					
履修条件・注意事項	臨床心理学・子ども家庭福祉等を履修していることが望ましい。					
授業計画	<p>第1回；講義概要の説明（本講義の主旨および講義計画について） 保育士の行う子育て支援の特性Ⅰ（目標1） ・子どもの保育とともに行う保護者支援</p> <p>第2回；保育士の行う子育て支援の特性Ⅱ（目標1） ・日常的、継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成</p> <p>第3回；保育士の行う子育て支援の特性Ⅲ（目標1） ・保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解</p> <p>第4回；保育士の行う子育て支援の特性Ⅳ（目標1） ・子ども、および保護者の状況・状態の把握</p> <p>第5回；保育士の行う子育て支援の展開Ⅰ（目標2） ・支援の計画と環境の構成</p> <p>第6回；保育士の行う子育て支援の展開（目標2） ・支援の実践、記録、評価、カンファレンス</p> <p>第7回；保育士の行う子育て支援の展開（目標2） ・職員間の連携・協働</p> <p>第8回；保育士の行う子育て支援の展開（目標2） ・社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働</p> <p>第9回；保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）Ⅰ（目標3） ・保育所等における支援</p> <p>第10回；保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）Ⅱ（目標3） ・地域の子育て家庭に対する支援</p> <p>第11回；保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）Ⅲ（目標3） ・障がいのある子ども及びその家庭に対する支援</p>					

	<p>第 12 回；保育士の行う子育て支援と実際（内容・方法・技術）Ⅳ（目標 3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 <p>第 13 回；保育士の行う子育て支援と祖に実際（内容・方法・技術Ⅴ（目標 3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども虐待の予防と対応 ・要保護児童等の家庭に対する支援 <p>第 14 回；保育士の行う子育て支援と実際（内容・方法・技術Ⅵ（目標 3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 <p>第 15 回；全体総括 期末試験</p>
授業外学修時間の確保について	<p>（事前・事後学習として週 4 時間以上行うこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回講義の最後に、次回の講義内容のテキストを伝えるので、入念に予習しておくこと、また、不明な点は調べておくこと。 ・講義を受けて、レポート課題があるときは、必ず次回の授業で出すこと。 ・授業で使った資料やノートのパイル管理を徹底すること。 ・講義で使用したテキストを必ず復習しておくこと。
学生に対する評価	<p>レポート提出 10%、発表 10%、期末試験 80%</p> <p>なお、レポート・答案等のフィードバックについては、以下の方法などによる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
テキスト	「子育て支援」（新・基本保育シリーズ⑱） 中央法規 I S B N978-4-8058-5799-1
参考書・参考資料等	<p>『保育所保育指針（平成 29 年告示）』</p> <p>『幼稚園教育要領（平成 29 年告示）』</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年告示）』</p>
担当者からのメッセージ	基本的な知識と、アクティブラーニングなどで実用的な学習に努める。
オフィスアワー	授業時間前後の空き時間
備考	一般的な保護者等への子育て支援のみでなく、児童相談所などで、障害児を持つ保護者、子ども虐待をした保護者、また、そのような保護者に対応している保育所・小学校などの現場で関わってきた経験をもとに、保育士などとして現場に出たときに必要な視点・対応について、アクティブラーニングを取り入れた講義を行う。